

県内小中学校の実践例

自己存在感の感受

分かる授業・面白い授業の工夫



モニター等に学習課題や子供の意見を提示するなど子供が見通しをもって学習に取り組んだり、発表した意見が授業の展開や仲間の考えを深めることに役立っていると感じたりできるようにしている。

個別最適な学び

「子供一人一人が何をしようとしているか」を把握するために机間指導をしている。その際、指導や助言をするとともに、その子の取組や意図を認め、価値付けする声掛けをしている。



共感的な人間関係の育成

話し合いの機会の設定



少人数で話し合う時は、全員が意見を出し合い、少数意見も大切にすることを意識させている。「みんなで作り上げる」という意識でグループの意見をまとめるように伝えている。

話し合いのルール

話し合いの時、一人の子が一方的に話すだけの時間にならないように、「1.5往復以上の会話」を意識させている。相手の考えを受け入れながら話し合いをするように伝えている。



自己決定の場の提供

個人による追究の時間の設定



学習課題を自分事として捉え、学びを深められるように、学び方、学ぶ内容、学ぶペースなどを、自分で考え、計画する時間を単元の初めに確保するようにしている。

選択のための視点等の提示

「どうすればうまくいくか」「一番気になるのは何か」「どこまで頑張れるか」など、子供が選ぶための視点を明確に伝え、なぜそれを選んだかを、言語化させ全体で共有するようにしている。



安全・安心な風土の醸成

児童生徒による学級の雰囲気づくり



安心して授業が受けられる雰囲気を子供たち自身でつくっていきけるように、「課題は何か」「どう改善するとよいか」を話し合う、合意形成する、協力して実践する、よくなったことを実感する、というプロセスを積み重ねるようにしている。

絆づくりの場の設定

「チーム学習（4人を1チームにした授業形態）」を行い、授業中はいつでも質問や相談できる環境を整えている。分からないことや知りたいことをすぐに仲間と共有し、解決できるようにしている。



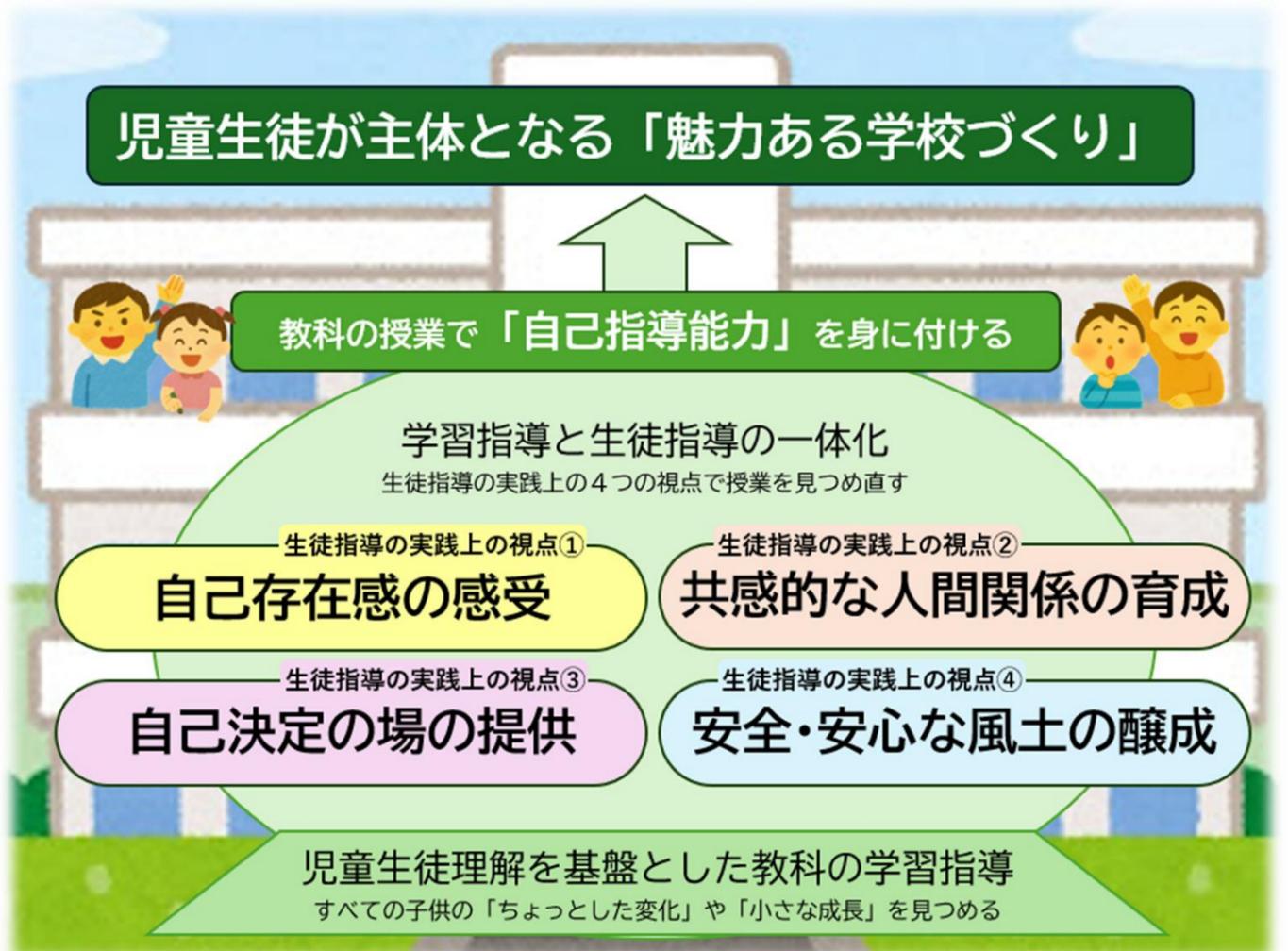
児童生徒が主体となる「魅力ある学校づくり」の在り方 ～4つの視点を生かした学習指導と生徒指導の一体化を通して～

近年、不登校児童生徒数は増加し続けており、学校には、課題の早期発見や早期対応、児童生徒の状況に応じた支援とともに、日常的な発達支持的生徒指導としての「魅力ある学校づくり」を進めることが求められています。

本リーフレットが目指す「魅力ある学校づくり」とは、日々の教育活動の中で、児童生徒が主体的に課題に挑戦してみることや多様な他者と協働して創意工夫することの重要性等を実感する中で「自己指導能力」を身に付けられる学校をつくることを考えています。

その手立てとして、学校生活の中心である教科の授業を生徒指導の実践上の視点で見つめ直し、学習指導と生徒指導の一体化を図ります。教師は毎日の授業の中で、児童生徒が達成感や安心感を得られるような声かけや仲間と協働できる授業づくり、個別の指導に取り組んでいます。このような取組を生徒指導の見方や考え方で、その意義や在り方を見つめ直し、改善を図ることで、「魅力ある学校づくり」に迫っていきます。

「自己指導能力」とは
主体的に自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力
＜生徒指導提要より＞



授業の中における生徒指導の視点を生かした取組

児童生徒支援加配教員研修会に参加した194名の先生から、授業において実践している4つの視点を生かした904件の取組を報告していただきました。各グラフは、協議題の趣旨を踏まえて、報告された取組を分類し集約したものです。

生徒指導の実践上の視点①

自己存在感の感受

自分を肯定的に捉える自己肯定感や、認められたという自己有用感を育む。

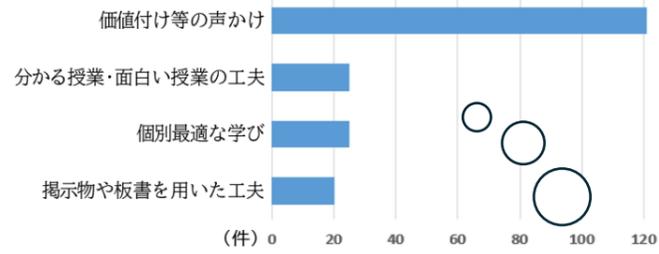
その違いに気付いたのはすごいね。みんなの話をよく聞いている証拠だね。あなたの発言のおかげでみんなの考えが深まったよ。

先生は、僕が考えていることや、がんばっていることを分かってほしいし、クラスの仲間も僕の話をしっかり聞いてくれる。だから自分が大切にされていると感じるよ。



価値付け等の声かけ

図1 研修会で報告された視点①を意識した取組



研修会では、努力や成長への価値付けや励ましなど、教師による「価値付け等の声かけ」が多く報告されました。「分かる授業・面白い授業の工夫」や、「個別最適な学び」など、自己有用感を育む取組も大切にしましょう。

生徒指導の実践上の視点②

共感的な人間関係の育成

互いに認め合い・励まし合い・支え合える学習集団づくりを推進する。

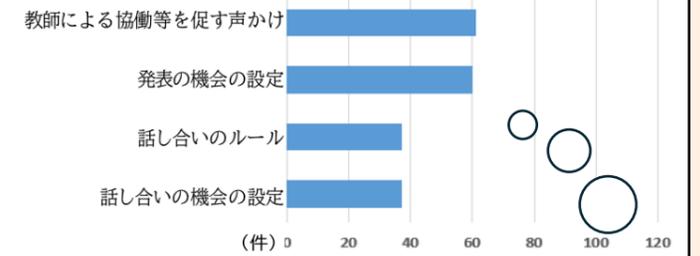
あなたと同じ課題に取り組んでいる人が何人かいるよ。それぞれが思い思いの方法で取り組んでいるので、意見交換してみるといいと思うよ。

自分の考えを話したら、真剣に聞いてもらえてうれしかったよ。みんなと交流すれば、もっと考えが深まると思うよ。



教師による協働等を促す声かけ

図2 研修会で報告された視点②を意識した取組



研修会では、「教師による協働等を促す声かけ」や「発表の機会の設定」が多く報告されました。「話し合いのルール」や「話し合いの機会の設定」など、お互いの意見や考えに関心を持ち合える取組も大切にしましょう。

生徒指導の実践上の視点③

自己決定の場の提供

意見を述べたり、仮説を検証しレポートにまとめたりすることを通して、自ら考え、選択し、決定する場をつくる。

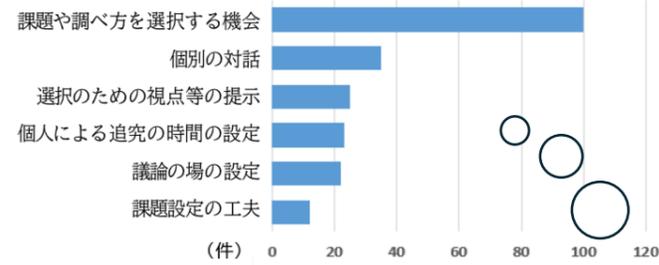
振り返りに「何からやればいいのかわからない」と書いていたね。課題の解決に「何が大切か」「どんな方法で調べるか」を、この中から探してみるといいよ。

先生は、自分で考えて自分で決める機会をちゃんと作ってくれるし、見通しがもてるヒントをくれる。自分がどう学ぶかを選べると、最後までがんばろうと思えるよ。



課題や調べ方を選択する機会

図3 研修会で報告された視点③を意識した取組



研修会では、「課題や調べ方を選択する機会」の設定に関する働きかけが多く報告されました。「選択のための視点等の提示」や「個人による追究の時間の設定」などの主体性を引き出す働きかけも大切にしましょう。

生徒指導の実践上の視点④

安全・安心な風土の醸成

児童生徒の個性が尊重され、安全かつ安心して学習できるように、様々な場面で配慮する。

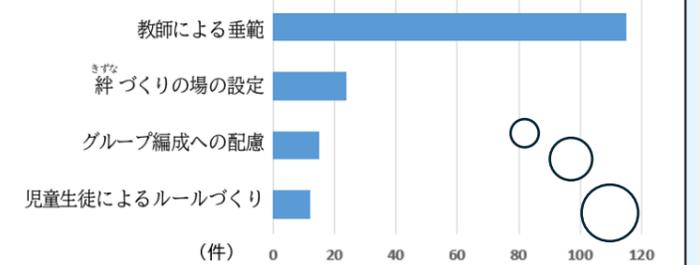
失敗したり、間違えたりすることは当たり前だよ。間違いを責めるのではなく、それを前向きに授業に生かせるようなクラスにしていこうね。

先生は失敗を授業に生かしてくれる。仲間も先生と同じで、前向きに受け止めてくれる。すごく安心して過ごすことができるよ。このクラスでよかったと思うよ。



教師による垂範

図4 研修会で報告された視点④を意識した取組



研修会では、教師が一人一人の考えを受容する態度を示すなどの「教師の垂範」が多く報告されました。グループワークなどの子供同士の関係づくりの機会も大切にして、「心の居場所」となるような学級を、児童生徒自身が築いていけるようにしましょう。

児童生徒理解を基盤とした教科の学習指導



教科の指導に児童生徒理解を通じて得た情報を活かすには、情報収集の方法を工夫する必要があります。

【児童生徒理解に必要な情報の一例】

- 日々の観察からの教師の気づき
- テストや各種調査・生活日誌等からの情報
- 出欠・遅刻・早退
- 保健室の利用などの情報
- 生活アンケート、家庭からの情報

このような情報を収集し、分析する方法として、「スクリーニング」が有効です。

「スクリーニング」は、毎日見ている子供の「ちょっとした変化」や「小さな成長」に目を向け、その気づきを支援につなげる取組です。生徒指導と学習指導の一体化は、このような児童生徒理解が基盤となります。



愛知県教育委員会 HP 参照

